

中東地域紛争犠牲者支援（ヨルダン）

報告者：藤原 真由（保健要員）

派遣期間：2019年10月4日～同12月23日

派遣地：ヨルダン・ハシミテ王国

2011年以降、シリア危機の対応として、ヨルダン赤新月社は2014年から国際赤十字・赤新月社連盟のサポートの下、地域住民参加型保健事業を展開しています。当事業では、対象となる地域在住の住民を地域保健ボランティアとして育成し、彼らから住民へ健康教育を行い、地域の健康増進に貢献しています。前回派遣時の報告書もご参照ください。



（前回報告書：https://www.osaka-med.jrc.or.jp/aboutus/international/pdf/006_111.pdf）

今回はもう少し具体的に家庭訪問や健康増進キャンペーンの内容をお伝えしたいと思います。

当事業はヨルダン赤新月社が中心となってボランティア管理、運営を行っています。日本赤十字社は2014年から5年間、当事業へ要員の派遣を行い、事業の質の向上にむけて継続したサポートをしています。報告者の役割は国際赤十字・赤新月社連盟の職員としてヨルダン赤新月社への技術的支援（予算管理や運営のサポート）、資金提供者（ドナー）や他団体（国連や大使館関係など）との調整業務を行うことでした。

報告者の活動には運営サポートのための事業地の視察も含まれます。視察ではヨルダン赤新月社のトレーニングや地域活動の運営能力、ボランティアの健康教育活動時のプレゼンテーション技術などをチェックします。視察が目的での活動への動向ですが、普段書類の確認やレポート作成などでパソコンと向き合っていることが多い業務の中で、唯一ボランティアや地域住民の方々と接することができる機会なので、個人的には楽しく嬉しい部分もありました。特に健康教育キャンペーンは子どもを対象にす



で、個人的には楽しく嬉しい部分もありました。特に健康教育キャンペーンは子どもを対象にす

ることが多く、子どもたちの元気いっぱいの姿にはこちらも癒やされ、彼らのためにも活動がんばろうと思えることもありました。

キャンペーンではどんなことをするのかというと、主に手洗い、うがい、歯磨きなどの個人の衛生知識、生活習慣病予防の健康的なライフスタイルやエクササイズの指導などです。アンマンでは都会で、歯磨きグッズも日本と同様にスーパーで売っています。歯磨き指導は基本的な教育という意味では有意義だとは思いますが、わざわざキャンペーンでする必要があるのか疑問に思っていました。しかし、ある調査によると¹、調査対象者（12-18歳）のなんと44.6%が歯磨きをしたことがない、84%が今までに歯科治療を受けたことがないという結果が報告されました。中東ではアルコールを飲む習慣がない代わりに甘いジュースや炭酸飲料を飲む事が多く、間食のお菓子もとても甘いです。また、パンの値段も非常に安く、炭水化物に偏りやすい傾向にあります。にもかかわらず約半数の子どもたちが歯磨きを習慣的にしていないのは驚きでした。キャンペーンの後には、衛生グッズとして、歯磨きセットや手指消毒剤、石鹸などが配られます。これらを用いて家でも行ってもらうことで、衛生習慣が身につき、教育を受けた彼らから周囲の人に広げて行くことでたくさんの人に効果があれば良いと思います。

他の地域活動には、家庭訪問があります。家庭訪問はボランティアが2人ペアになり、訪問した家庭での会話から健康ニーズを明らかにし、その場で教育するものです。ヨルダンでは生活習慣病が死因の約80%を占めると言われているため、家庭訪問での教育内容も生活習慣病予防や健康的なライフスタイル、エクササイズなどが多いです。しかし中には、十分な食事がなく基本的な生活の権利が脅かされている方もおられます。同行させていただいた家は、アンマン郊外にあるテント暮らしの方でした。私達の事務所がアンマンでしたので、どうしても都会の建物を見る事が多く、



¹ https://www.researchgate.net/publication/318892947_Oral_health_status_and_behaviour_in_Jordanian_adolescents_aged_12-18_years

同じアンマンにもテント生活の方がいることに衝撃を受けたとともに、難民の方々の生活への自分の想像力の欠如に申し訳なく思いました。難民の方々は、就労の制限があるため、生活は支援団体からの物資の配給や食べ物のクーポンに頼らざるを得ないとお伺いしました。小さな子どもを抱える方、妊娠中の方もおり、病院にかかりたくても資金面からかかりにくいということも問題として抱えておられました。そんな中、ヨルダン赤新月社のボランティアの訪問により、健康チェックなどを行っている支援団体を紹介してもらったり、様々なストレスから生じる暴力に関する知識と予防について教えてもらったことは、安心につながったとおっしゃってくださいました。ここでも、ヨルダン赤新月社の活動の意義を強く感じました。

視察を通して、普段のデスクワークだけでは見ることができない、受益者の方々の生の声、反応を知ることができ、ニーズと赤十字・赤新月社の役割、活動の効果と必要性を明らかにすることにつながりました。このことから、いかにフィールドでの活動視察が重要かということも再認識しました。これからも困っている方が少しでも安心した生活ができることを祈るとともに、赤十字組織の一員として、地域のニーズに沿った活動ができるように心がけていきたいと思っております。

